

Mint Club



Japan Mint

造幣局

78号
ミントクラブ

造幣局創業150年にまつわる話

第2回「穴あき貨幣の歴史」

現在流通している貨幣の中で、有孔貨幣、通称穴あき貨幣は、二種類あります。50円貨幣と5円貨幣です。穴あきの50円貨幣はニッケルを素材として昭和34（1959）年に製造を開始し、昭和42（1967）年に素材を白銅に変えています。穴あきの5円貨幣は黄銅を素材として昭和24（1949）年に製造が始まり、昭和34年（1959）年に書体が楷書体からゴシック体に変更され現在に至っています。

ところで、造幣局の歴史を振り返ると、穴あき貨幣の製造は大正時代から始まっていたことが分かります。造幣局創業150年にまつわる話 第2回目は、穴あき貨幣についてのお話です。

造幣局が最初に製造した穴あき貨幣は、大正5（1916）年に仕様が改められた5銭貨幣です。貨幣の中央に穴をあけたのは、材料節約と偽造防止のためでした。

造幣局創業と共に銀貨として誕生した5銭貨幣は、表面に龍、裏面には菊紋・桐紋と、太陽などを表す日章がデザインされていました。その後、素材が白銅に変更され、菊や稲穂の図柄が使われたのち、中央に穴があいた貨幣となったのです。図柄は、表面に菊紋と桐と「五銭」の文字が刻まれ、裏面には円形の鏡の周囲を八枚の花弁でかたどった八稜鏡と、波をかたどった青海波が刻まれました。



大正6年銘5銭白銅貨幣

造幣局が次に製造した穴あき貨幣は、大正9（1920）年に仕様が改められた10銭貨幣です。5銭貨幣と同様、銀貨として誕生した10銭貨幣は、

もともと表面に龍、裏面に菊紋・桐紋・桐と日章が刻まれた貨幣でした。明治6（1873）年に桐紋がなくなり、日章が「十銭」の文字に代わり、さらに明治40（1907）年には龍がなくなり、表面に菊紋と「十銭」の文字、裏面は日章を桜花で囲んだデザインに変更して、大正6（1917）年まで製造されました。

大正7（1918）年、8（1919）年には、八咫烏^{やたがらす}が刻まれた10銭銀貨幣が製造されましたが、銀価格が暴騰したことより市中に流通することなく、すべて造幣局で銷毀されました。この10銭銀貨幣は大正9（1920）年に廃止され、新たに製造することになったのが、穴あき10銭白銅貨幣です。新しい10銭白銅貨幣の図柄は、穴あきの5銭白銅貨幣と同様、表面に菊紋と桐と「十銭」の文字が刻まれ、裏面には八稜鏡と青海波が刻まれました。



大正9年銘10銭白銅貨幣

三番目に造幣局が製造した穴あき貨幣は、日本ではなく、外国で使う貨幣でした。大正15（1926）年、シャム国（現在のタイ王国）の大蔵省が、5サタンニッケル貨幣と1サタン青銅貨幣の製造を国際競争入札に出し、1サタン青銅貨幣を落札した日本の三井物産株式会社が、造幣局に製造を依頼してきたのです。

第一次世界大戦後の不況や、大正12（1923）年9月に発生した関東大震災により、日本経済は大きな打撃を受けました。影響は造幣局にも及び、貨幣の製造枚数は減少し、職員の削減も行っていました。そんな時に舞い込んできたのが、シャム国貨幣の製造でした。直径22.5mm、重さ5.0gの1サタン青銅貨幣を、造幣局は大正15年から昭和4年まで製造し、合計1億枚をシャム国に送りました。



シャム国1サタン青銅貨幣

戦前の造幣局で製造された穴あき貨幣は、この三種類です。シャム国1サタン青銅貨幣の製造は昭和4（1929）年で終了しますが、10銭貨幣と5銭貨幣の製造は、デザインや素材を変更しながら、昭和20（1945）年まで続きました。

最初のデザイン変更は、昭和8（1933）年です。軍需資材として不可欠なニッケルを海外から輸入し、貨幣材料として使用しながら、有事の際には貨幣を回収して軍需資材に使用する計画が持ち上がり、10銭白銅貨幣と5銭白銅貨幣を、初の純ニッケル素材の貨幣として作り替えることになったのです。

10銭ニッケル貨幣の図柄は、表面に「十銭」の文字と菊紋・桐紋と唐草、裏面に青海波・桜花が刻まれ、5銭ニッケル貨幣の図柄は、表面に「五銭」の文字と菊紋、金鶏、裏面に勾玉連環・桜花が刻まれました。金鶏とは、『日本書紀』に登場する金色のトビのことで、神武天皇を勝利に導いた存在とされていることから、縁起が良いものの象徴として日本酒やたばこのパッケージに使われ、昭和8年に貨幣デザインにも採用されたのです。



昭和8年銘10銭ニッケル貨幣



昭和8年銘5銭ニッケル貨幣

次のデザイン変更は昭和13（1938）年です。増大する貨幣需要へ対応するため、そして軍需資材に必要なニッケルを確保するため、10銭と5銭のニッケル貨幣の製造を中止し、アルミニウム青銅貨幣に作り替えることになったのです。



昭和13年銘10銭アルミニウム青銅貨幣



昭和13年銘5銭アルミニウム青銅貨幣

その後、10銭貨幣と5銭貨幣は昭和15（1940）年には穴なしの純アルミニウム貨幣になり、アルミニウムが航空機の材料として用いられるようになると、貨幣の量目は二度にわたり減らされました。

昭和19（1944）年、10銭貨幣と5銭貨幣は、穴なしの貨幣から、再び穴あきの貨幣に作り替えられました。素材は錫で、溶けやすく柔らかい金属を貨幣の材料として使わなければならないほど、当時の日本はひっ迫した状況にあり、これが、戦前の造幣局が製造した最後の穴あき貨幣になりました。



昭和19年銘10銭錫貨幣



昭和19年銘5銭錫貨幣

昭和19年8月になると、錫の調達も難しくなり、10銭と5銭の錫貨幣の製造が中止されました。さらに、貨幣工場の設備を使って砲弾や航空機の部品の製造を行うことになり、貨幣の製造量は減少していきます。なお、この頃の造幣局では、多くの職員が出征していたことから、近隣の学校に通う女学生や勤労挺身隊が作業に当たっていました。

昭和20（1945）年、太平洋戦争が終わると、新たなデザインの10銭アルミニウム貨幣と5銭錫貨幣が製造されることになりました。10銭貨幣には稲穂、5銭貨幣には鳩の図案が使われましたが、これらは穴あき貨幣ではない上に、昭和21（1946）年10月に製造中止となり、明治時代から続いていた10銭貨幣と5銭貨幣の製造は完全に終了しました。

大正から昭和にかけて、日本中で使われた10銭貨幣と5銭貨幣。遠い異国で使われた1サタン貨幣。どれも今は流通していない貨幣ですが、戦前の造幣局で製造した貴重な穴あき貨幣です。50円貨幣や5円貨幣を見た時には、昔の穴あき貨幣にも思いを馳せてみてください。

令和3年「桜の通り抜け」「花のまわりみち」 関連製品の抽選会開催



今年は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、「桜の通り抜け」の開催を中止することとなりましたが、「桜の通り抜け」「花のまわりみち」関連製品については通信販売により販売させていただきました。申込受付の結果、以下の製品については申込数量が販売数量を上回りましたので、令和3年4月28日(水)に抽選会を開催いたしました。

販売製品	販売価格 (消費税・送料込)	販売数量 (セット/個)	申込数 (セット/個)
桜の通り抜け2021プルーフ貨幣セット	13,700円	17,000	22,813
令和3年桜の通り抜け貨幣セット	2,300円	45,000	55,678
令和3年花のまわりみち貨幣セット	2,300円	30,000	43,026
令和3年桜の通り抜け記念メダル(銀)	27,000円	2,000	3,491
令和3年桜の通り抜け記念メダル(銅)	7,100円	2,500	3,425



造幣局製品の贈呈

章牌の製品化及び周知活動にご協力いただいた、一般社団法人富山県民謡越中八尾おわら保存会に贈呈。
令和3年7月5日(月)
[写真左側]
一般社団法人富山県民謡越中八尾おわら保存会 会長 金厚有豊 様



薬師寺

国宝章牌



金章牌(表)



金章牌(裏)



銀章牌(表)



銀章牌(裏)

造幣局では、貴重な国宝及びそれに付随する文化財を題材に取り上げ、国宝章牌を製造・販売しています。

今回は、「古都奈良の文化財」として世界文化遺産に登録されている「薬師寺」を題材にしました。

章牌の表面は、お釈迦様の足跡を彫った仏足跡を背景に、東塔の全景と水煙の笛吹童子をレリーフ(浮き彫り)で表現し、裏面は、中央に配した東塔の椽銘には梨地加工技術(※)を施し、周囲には薬師如来台座にある四神をレリーフで表現しています。

(※)梨地加工技術とは、表面に細かな凹凸を刻むことにより光を乱反射させ、梨の表面のような質感に仕上げる加工技術です。

製品名	国宝章牌「薬師寺」(金)	国宝章牌「薬師寺」(銀)
材質	純金 (造幣局品位証明刻印入り(「  」を章牌裏面に打刻))	純銀 (造幣局品位証明刻印入り(「  」を章牌裏面に打刻))
直径・重さ	直径:35mm・重さ:約45g	直径:60mm・重さ:約160g
仕上・その他	桐箱入り	銀いぶし仕上げ(表面)・化粧ケース入り
販売価格(消費税・送料込)	441,000円	34,000円
販売予定数量	800個	2,000個
※販売予定数量のうち、海外販売用等として若干数を控除いたします。 ※お申込みの状況によっては、販売数量を変更する場合があります。		
申込数	申込数に制限はありません。 ※販売予定数量を超えたときは、抽選とさせていただきます場合があり、その際は、申込数にかかわらず、購入数を制限する場合があります。	
申込受付期限	令和3年10月18日(月)消印有効	
申込方法	同封の申込はがき又は郵便はがき若しくは造幣局オンラインショップ(https://www3.mint.go.jp/)により、お申し込みください。	
申込先	(はがき表) 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-79 造幣局 薬師寺 係 (はがき裏) ①章牌の種類(金・銀)及び申込数量 ②郵便番号 ③住所 ④氏名及び読み仮名 ⑤電話番号 ⑥お客様コード(9桁の数字、造幣局に登録のある方はご記入ください。)	

《通信販売の共通事項》国宝章牌「薬師寺」(金・銀)、FIDEM第36回 日本/東京大会 開催記念 金メダル共通です。

受け付けた方への連絡	造幣局発行の払込用紙等ご入金のご案内を10月下旬頃(抽選となった場合は11月中旬頃)から順次送付いたします。払込用紙の裏面等に記載の注意事項をよくお読みのうえ、払込期限内にコンビニエンスストア、郵便局(ゆうちょ銀行)又は銀行(銀行振込手数料はお客様のご負担)でご入金願います。30万円を超える場合は、コンビニエンスストアではご入金いただけませんので、郵便局(ゆうちょ銀行)、銀行をご利用ください。なお、造幣局オンラインショップからお申し込みいただいた方は、クレジットカードでもお支払いいただけます。また、製品の発送はご入金・お支払い後となります。抽選となった場合は、受付できなかった方への連絡はいたしませんので、ご了承ください。
製品の発送	10月下旬頃(抽選となった場合は11月下旬頃)から順次発送いたしますが、お申込みの状況によっては、製品のお届けが翌年の1月頃となる場合がありますので、ご了承ください。なお、複数の製品を同時に申込み及びご入金・お支払いいただきましても、別々のお届けとなる場合があります。
返品について	製品到着後、速やかに段ボールから取り出しご確認ください。万一、不良品又はお申込みと異なる製品が届いた場合は良品と交換いたします。恐れ入りますが、到着後速やかに造幣局へご連絡のうえ、ご返送願います(送料造幣局負担)。なお、お客様のご都合による返品やお客様の責に帰すべき不具合には応じることはできませんのでご注意ください。製品は涼しく湿気の少ない場所で保管してください。なお、年月の経過によりケースの色合い等が変化する場合がありますが、交換には応じることはできませんのでご了承ください。
個人情報の取扱い	お客様の個人情報は、ご入金・お支払いの確認、製品の発送等お申し込みいただいた製品の販売に関する事務に利用するほか、造幣局製品やイベントのご案内、お問合せ・アンケートのために利用する場合があります。お客様のご了解がない限り、その他への利用はいたしません。

FIDEM第36回 日本／東京大会 開催記念 金メダル

※約2倍表示

(表)



(裏)



2021年12月、日本で、国際メダル連盟(FIDEM)による芸術メダルに関する第36回世界メダル会議と第36回国際メダル展が開催されることとなりました。1937年にフランスでFIDEMが設立されて以来、国際会議と展覧会がアジア圏で開催されるのは初めてのことで。

造幣局では、このことを記念して、「FIDEM第36回 日本／東京大会 開催記念 金メダル」を製造し販売することといたしました。

メダルの表面は日本文化を象徴する着物の帯締めと和模様を、メダルの裏面は同じく日本文化を象徴する着物の飾り結びの帯と和模様をデザインし、人と人との交流を表現しています。

製 品 名	FIDEM第36回 日本／東京大会 開催記念 金メダル
材 質	純金(造幣局品位証明刻印入り(「  」をメダル裏面に打刻))
寸 法 ・ 重 さ	寸法:(長径)27mm×(短径)23mm・重さ:約15.8g
仕 上 ・ そ の 他	特製ケース入り
販 売 価 格 (消費税・送料込)	218,000円
販 売 予 定 数 量	200個 ※販売予定数量のうち、海外販売用等として若干数を控除いたします。 ※お申込みの状況によっては、販売数量を変更する場合があります。
申 込 数	申込数に制限はありません。 ※販売予定数量を超えたときは、抽選とさせていただきます場合があり、その際は、申込数にかかわらず、購入数を制限する場合があります。
申 込 受 付 期 限	令和3年10月18日(月)消印有効
申 込 方 法	同封の申込はがき又は郵便はがき若しくは造幣局オンラインショップ(https://www3.mint.go.jp/)により、お申し込みください。
申 込 先	(はがき表) 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-79 造幣局 F I D E M 係 (はがき裏) ①申込数量 ②郵便番号 ③住所 ④氏名及び読み仮名 ⑤電話番号 ⑥お客様コード(9桁の数字、造幣局に登録のある方はご記入ください。)
8ページの「通信販売の共通事項」もご覧ください。	

造幣局では、最新の情報をメールマガジンで配信しています。
ご登録は、右記のホームページまでお願いします。

※この冊子に掲載している写真はイメージのため、現物とは異なります。

発行所 独立行政法人 造幣局
〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号
造幣局ホームページ(URL)<https://www.mint.go.jp/>
お問合せ先 造幣局お客様サービスセンター
TEL 0570-01-2626(ナビダイヤル)
ナビダイヤルをご利用できない場合06-6351-2626
(平日午前9時～午後5時)

令和3年9月27日発行(第78号)



FIDEM
TOKYO 2020